

救急法講習会開催

常任支援員 大野 由樹

2009年6月27日（土）地域支援ボランティアセンター主催の「救急法」講習会を行いました。講習会には10名を超える参加者が集まり、毛布を使った保温・加熱方法や心肺蘇生法・AEDの使い方などを日本赤十字社の方から教わりました。



☆実際に暖め中

☆傷病者を保温・加熱しよう

皆さんは目の前に寒がっている人を見たらどのように思うでしょうか？大抵の人は「服を着ればいいのに」とか「暖まればいいのに」と思うはずです。

そこで今回の講習会では心肺蘇生法のほかに毛布を使った傷病者を保温・加熱する方法も学びました。そのときに必要なのは適切な方法と知識です。適切な方法や知識といってもすごく簡単なもので男性、女性問わずに学びました。しかも、傷病者の体格が大きい場合には毛布を斜めに使うことで対処するといった臨機応変さも重要だと知りました。

☆緊急時には AED を！！

皆さんは淑徳大学には AED がどこにあるかご存知ですか？淑徳には2号館ボランティアセンター側の1階保健室の前にあります。しかし、AEDがあっても使用できなければ救える命も救うことができません。今回の参加者は全員、真剣に指導を受け AED を使った心肺蘇生法を学びました。

皆さんの中には中学や高校、教習所で心肺蘇生法を習ったという方もいるでしょうが、ではその習った蘇生法をいざという時に正しく行うことが出来るのでしょうか？正しく行うためには練習が必要です。蘇生法を学びたい人、もう一度やりたい人は是非ボランティアセンターまでお越しください。



☆AED 使用中

◆日本赤十字社とは…

日本赤十字社が主な活動としているのは国際活動・災害救護活動・医療事業・看護師等の育成・血液事業・講習普及事業・赤十字ボランティアの育成・青少年赤十字活動の推進・社会福祉事業です。私達が気軽にできることは血液事業＝献血です。

現在、日本赤十字社では私達の世代のボランティアがとても少ないそうです。赤十字社の活動に興味のある方は是非、ボランティアセンターまでお尋ねください。

地域密着！学生消防隊

～千葉市民にも注目されています！～

常任支援員 本多 恵

◇消防隊の結成式

2009年5月14日に千葉キャンパスで消防隊の結成式が行われ、私は淑徳大学消防隊の副隊長として参加しました。そこでは千葉市の消防関係者らにお越しいたき市消防団本部の副団長から消防団員の辞令が交付され、そのことで今後の活動への意欲が高まりました。消防隊で得た知識や技術を活かして、地域の皆さんが安心して暮らせるような活動をしていきたいと思います。結成式の様子が千葉日報（5月23日付け）にも掲載されました。



辞令交付の様子

◇雨二モ負ケス

同月24日、千葉市役所の駐車場で小型ポンプの操法大会が行われました。操法大会とは、速さと正確さを競う他に、規律と呼ばれる動きや、2名以上の動きをそろえて見せるなど動きの綺麗さが要求されるものです。私たちが所属している第3分団1部は5連覇の偉業を達成しました！当日は大雨という悪天候にも関わらず団員の皆さんが練習の成果を発揮しており、その姿に感動しました。なお応援中にアイスが差し入れされ、みんなで食べながら他の団員ともフレンドリーに話すことができました。

私たち学生消防隊は、今年から結成されたために活動内容がまだ具体的に決定されていません。しかし操法大会によって刺激を受け、いくつかの目標を決めました。①操法大会に出場すること。②AED講習を受けて指導員になれるようにし、地域の子供たちや高齢者に指導することなどです。私たちは地域の方々との交流や人と人との出会いを大切にしていきたいと考えています。消防隊に興味がある人、地域の方々と触れ合いしたいと思っている人は私たちと一緒に活動してみませんか？2号館の地域支援ボランティアセンターにいますので、ぜひ気軽にお越し下さい。

岩手・宮城内陸地震から1年を迎えて

常任支援員 小宮 成登

今回の宮城支援合宿では、大学(千葉 12 名、みずほ台 4 名)、淑徳短大 4 名の計 20 名が地震の被害の激しかった宮城県栗原市の花山地区と栗駒地区に行き、今回の震災を見つめることで自然災害の恐さを改めて学び、被災者の方々と交流を目的に行ってきました。



野菜販売の様子



キャンドルの設置の様子

† 慰霊祭 †

2008 年 6 月 14 日に起きた岩手・宮城内陸地震から 1 年を迎え、復興を誓う催しと犠牲者を追悼する慰霊祭が栗原市で開催され、私たちは 2 班に分かれ花山地区と栗駒地区の慰霊祭のお手伝いとキャンドルセレモニーの点灯のお手伝いをしてきました。

・花山地区

6/13 早朝から感謝市が開催され、地元で採れた野菜などの販売のお手伝いをしました。午後からは震災 1 周年フォーラムに参加し、地震当日など様子や今後の復興における課題等を伺いました。また 1400 個のキャンドルを使い「6・14 花山ありがとう この 1 年」と描かく作業と点灯のお手伝いをしました。

・栗駒地区

午前中は廃線になった旧くりこま田園鉄道の線路上 2km に 600 個のキャンドルを並べ、午後からは犠牲者の供養祭に参列して冥福を祈りました。ボランティア中に被災者の方とお話をする機会があり、「今回の体験で地震への価値観が変わった」というお話を聞き、1 年前の震災の凄まじさを感じました。

◆ 活動を通して ◆

被災者の方々との会話の中で、「震災から 1 年を振り返って自宅に帰れないなど大変なことが多く、あっという間に過ぎた 1 年だった」ということを聴きました。山間部では 1 年たった今も、地震の爪あとを色濃く残していて地震の恐さを感じることができました。被災地に行き、生の現場を見ること、被災者の方のお話を聴くことがその地震を理解することだと思いました。

また慰霊祭で被災者の方が「今日は現実の辛さを忘れることができた、でも明日からまた辛い現実に向き合っていかなくては…今日はありがとう」と声をかけてくださいました。私たちは、慰霊祭の準備等のお手伝いや、キャンドルに灯りを灯すこと、そのことで被災者の方々に喜んで頂いたこと、キャンドルの光に希望を重ねられたこと、被災者の方々と同じ時間を過ごせたことを嬉しく思いました。

手作りキャンドルを無事に届けました！

被災者の方々へ心のこもったプレゼントを届けようと、多くの学生、学校関係者の方々からご協力を頂き、無事に栗原市の花山地区・栗駒地区の仮設住宅に 100 個の手作りキャンドルを届けてきました。

ご協力ありがとうございました。